

第 211 回
定例探鳥会

日時：2004 年 7 月 11 日 (日) 天候：晴れ
コース：高来神社 高麗山 地獄沢 高来神社

今回はいつものコースを少し変えて、高麗山の北面の地獄沢から亀堀沢を巡り高来神社に戻るコースをとってみました。この時期どうしても鳥が少なく暑い森の中をひたすら歩くようになり、変化のない探鳥会になってしまうため、先月の花水川に続きちょっと雰囲気を変えました。

今朝は天気もよく、上空をイワツバメ、ヒメアマツバメが飛びかうのが高麗山上空で見られました。山に入ると鳥の声も静かになり、ヒヨドリも少ない季節で、ヤマガラ、シジュウカラの幼鳥が見られた程度でした。

大堂ではアオバトの鳴き声が聞こえました。鳴き声がすごかったのはアオゲラでした。周辺を激しく鳴き回りましたがなかなか姿を確認できず、近くで営巣でもしているのかと、早々に立ち去ることにしました。いつものコースから久しぶりの地獄沢方向に下りて行き地獄沢に入る分岐点で、いました、いました、お目当てのキビタキの声を確認し、すぐにキビタキの若鳥、そしてキビタキ成鳥のが近くで観察でき、ほぼ全員が見ることが出来、大満足しました。

その後は高麗山の北面の脇をぐるり回って高来神社近くまで戻り、鳥合わせ。ちょっといつもより歩く時間が長かったが、この季節にしてはなかなか面白い探鳥会でした。

参加者

参加人数 32 名 (敬称略)

- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|-------------|
| 1. 鈴木 逸子 | 2. 八木 正 | 3. 大谷 道男 | 4. 大谷 秋代 | 5. 平塚津矢子 |
| 6. 下倉 紘一 | 7. 山田 文則 | 8. 中川 勲 | 9. 南 那津子 | 10. 木田 ハマ |
| 11. 鈴野 嘉久 | 12. 下村 正明 | 13. 小林めぐみ | 14. 小林 久枝 | 15. 白井 弘恭 |
| 16. 沢田 興三 | 17. 福持日出夫 | 18. 加藤 卓也 | 19. 清水 哲子 | 20. 松下 弓子 |
| 21. 赤井 啓吾 | 22. 森田 義雄 | 23. 松本 鈴子 | 24. 別所 三郎 | 25. 伊藤 武雄 |
| 26. 国友 昭男 | 27. 片倉 暹 | 28. 吉尾 孝 | 29. (田端 裕) | 30. (岩佐 昌夫) |
| 31. (金子 典芳) | 32. (斎藤 常實) | | | |

見聞きした鳥

種類数 23 種 (ドバトを含む)

- | | | | | |
|---------|------------|-------------|----------|-----------|
| 1. カワウ | 2. トビ | 3. カルガモ(川) | 4. コジュケイ | 5. キジバト |
| 6. アオバト | 7. ドバト | 8. ヒメアマツバメ | 9. コゲラ | 10. アオゲラ |
| 11. ツバメ | 12. イワツバメ | 13. ヒヨドリ | 14. ウグイス | 15. キビタキ |
| 16. エナガ | 17. シジュウカラ | 18. ヤマガラ | 19. メジロ | 20. カワラヒワ |
| 21. スズメ | 22. ムクドリ | 23. ハシブトガラス | | |

一色の磯～奥三河(愛知県)アオバト調査

愛知県からはいろいろな所でアオバトの目撃が報告されており、海水の吸飲も記録されています。6月4日～6日の3日間、こまたん名古屋支援隊からのお誘いもあり3名の調査隊を派遣しました。以下は支援隊との合同アオバト調査のレポートからの抜粋です。

日時 2004年6月4日～6日(4日22:30 平塚発)
調査地 一色の磯(渥美半島、田原市赤羽根) ... 照ヶ崎海岸に似ている
段戸裏谷 ... 原生林・ブナの南限
面の木園地 ... 標高1,000m
みどり湖 ... 佐久間ダム of 南側
桜淵公園(新城市) ... 一色の磯へのコース上の公園

参加者 こまたん : 斎藤、山田、金子
(敬称略) こまたん名古屋支援隊 : 佐々木(野鳥の会愛知県支部長) ... 6/5、6/6
松原、古田、伊藤、辻村、新井、久保田 ... 6/6

一色の磯(6/5)

2時15分頃に到着し仮眠。4時20分頃(つまり夜明け前)に目覚めて海岸に降り立つと、いきなり「オアオー」！その後何回か飛来。海水吸飲も確認。こまたん名古屋支援隊であり野鳥の会愛知県支部長でもある佐々木さんが6時30分頃に到着。7時45分までの3時間25分の観察で、総飛来数126羽、瞬間最大飛来数27羽をカウントした。5時30分には、砂浜に降りた5羽が砂浜に溜まった海水を吸飲した。1羽が岸辺の風にゆらゆら揺れている笹にとまるという光景をはじめて見た。



段戸裏谷(6/5)

ここは標高900mくらいで、ブナの南限に位置し、一色の磯から約60kmほど離れている。樹齢300年を越えるモミ、ツガ、ミズナラ、ブナを中心にした針広混合樹林で、林下にはスズタケが茂っていた。アオバトが繁殖しているもおかしくない雰囲気はあったが、午後の2～3時ではアオバトの動きが少ないのと、森の中では見晴らすことができないので観察はかなり厳しい。

面の木園地(6/5)

標高1,000mの愛知県内に残された数少ない原生林。カッコウがよく鳴いていた。周りを見るとアオバトが営巣していてもおかしくない環境。アオバトは確認できず。

みどり湖(6/5 & 6/6)

ここは一色海岸からは段戸裏谷よりもさらに遠く、東側に一山越えれば佐久間ダム。みどり湖上流の入口に着いたとたんにアオバトを発見。早速、車を降りて観察。約15分間の短時間で10羽を観察。駐車場で車中泊。暗くなる前に明朝アオバトが飛来しそうな枯れた高木をチェック。夜中の1時頃には名古屋支援隊の6名も到着した。翌朝は4時30分に起床。堂平での経験から昨日チェックしておいた枯れ木には、思ったとおりにとまっているアオバトを次々と発見。群れは見つからなかったが繁殖地と考えてよいと思われる。金子さんがサクラの下で腹の羽を発見。ここはほとんどがスギ、ヒノキの植林で、堂平のようなまとまった自然林は見当たらない。繁殖はしているだろうが密度は低く、広範囲に分散しているようだ。

桜淵公園(6/6)

ここは、段戸裏谷から一色に飛来すると考えると、そのコース上にあり、以前アオバトが観察されているサクラの名所。6日にはサクラの実はずで一つもなかった。アオバトは確認できず。

調査の感想：

一色の磯で瞬間最大 27 羽を観察できたことはちょっと感動だった。渥美半島での観察結果は、アオバトが塩分補給にどれくらいの距離を飛んでくるのだろうかを考えると、繁殖可能と考えていた場所が近くに無いという条件が面白い。照ヶ崎へ飛来するアオバトは 30～35km 離れた丹沢から飛来する。では一色海岸に飛来するアオバトの繁殖地は？地図を見るとわかりますが、繁殖地の可能性があると考えてきた 900m 以上の場所は近くには無く、段戸裏谷やみどり湖だと 60km 以上の距離です。どうやって 4 時 20 分に海岸で鳴くのでしょうか？アオバトのお泊りは、照ヶ崎でもこれからの最大の課題の一つ！

今回、こまたん名古屋支援隊と初の合同調査をしたことは意義深いことだった。今後、他の地域の方々と調査していく先駆けとなったような気がします。あらためて佐々木さん(二日間詳細なご案内)、松原さん、伊藤さん、古田さん、辻村さん、新井さん、久保田さんありがとうございました。

高麗山の植物…その スミレ スミレ科

西ヶ谷 修一

スミレの種子には「エライオソーム」というゼリー状の物質が付着している。この物質はアリの好物で、お菓子の「おまけ」のような役割をしている。アリもまたエライオソームを餌とするために種子を自分の巣にもちかえるのだ。このアリの行動によってスミレの種子は遠くへ運ばれるのである。

しかし、アリの巣は地面の下にある。地中深くへと持ち運ばれたスミレは芽を出すことが出来るのであるだろうか。もちろん心配はご無用。これも計算のうちである。アリがエライオソームを食べ終わると、種子が残る。種子はアリにとって食べられないゴミなので、巣の外へ捨ててしまうのだ。このアリの行動によってスミレの種子は見事に散布されるのである。アリの巣は必ず土のある場所にある。街中ではアリの巣の出入口はアスファルトやコンクリートの隙間をうまく利用している。野の花のイメージが強いスミレが街の片隅のコンクリートの隙間や石垣に生えているのは、わずかな土を選んでアリに種子をまいてもらっているからに他ならない。そのうえ、アリのゴミ捨て場には、他にも植物の食べカスなども捨てられているから、水分や栄養分が豊富に保たれているという特典つきである。

スミレは花にも驚くべき秘密がある。スミレの花を見ると、花を長くして後ろに突き出した形になっている。この突き出ているのが「距(きょ)」と呼ばれている部分である。距は蜜の容器ものになっている。茎は前方の花の部分と後方の距の真ん中についており、やじるべえのようにバランスをとっている。花を長くするため、中央でバランスをとるような構造になっている。そうまで花を長くしたのはには理由がある。花にはさまざまな虫が訪れる。花粉を運んでくれる虫もいれば、花粉を運ばずに蜜だけを盗んでいく虫もいる。スミレはこんな虫のなかから、真に花粉を運んでくれるパートナーを賢く選び出さなければならない。そのため長い花を作り上げたのである。



【お知らせ】

照ヶ崎アオバト観察会

8月29日(日) & 9月26日(日) 6時～9時頃 連続アオバト観察会

参加時間は自由です。都合のよい時間にどうぞ。水分と暑さ対策をお忘れなく

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 9月4日(第1土曜日)

鷹取山 9月11日(第2土曜日)

午前6時に、高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合。午前中に解散。雨天中止

問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

鳥 報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

アオバト情報

照ヶ崎への飛来情報

日付	観察時間		天気	飛来回数	飛 来 数		備 考
	開始	終了			総 数	瞬間最大	
7/11	6:00	10:00		50	534	35	今年生まれの幼鳥の照ヶ崎への飛来 初認は 7/19 7:01 のタイプ1羽で23羽の群れの中にいました。 次の幼鳥の飛来は 7/21 のタイプ1羽です。 その後は連日見られるようになり、7/26には8羽、7/31には10羽、8/1には36羽と数も増えてきています。 ハヤブサはまったく姿を現さなくなりました。他に獵場を見つけたのでしょうか？
7/15	5:20	10:00		-	840	49	
7/17	4:10	6:00		13	292	60	
7/18	5:50	10:00	/	49	963	126	
7/19	5:50	9:45		55	1,234	75	
7/20	6:00	10:00		46	503	33	
7/21	6:00	10:00		42	573	49	
7/22	6:00	9:00		48	798	80	
7/23	6:20	9:30		52	1,063	68	
7/24	4:20	10:00		90	1,888	79	
7/25	4:50	8:40		105	1,282	48	
7/26	6:00	10:00	/	70	1,128	63	
7/27	6:00	10:00		66	786	61	
7/30	6:00	11:00	/ /	29	335	23	
7/31	6:00	10:00	/ /	48	744	45	
8/1	4:40	10:00	/	101	2,443	110	

その他の場所でのアオバト情報

高松海岸(三重県三重郡川越町) : 7/18, 9:30 3羽が砂浜で海水を飲む

その他の野鳥情報

クロサギ : 7/24 照ヶ崎の岩場 1羽

ゲンカンドリ : 7/30 照ヶ崎プール上空に現れ、東へ飛び去った。オオゲンカンドリかコゲンカンドリかは不明

イソヒヨドリ : 8/1 照ヶ崎 1羽。テトラポッドにとまる。帰ってきました。

夏休みに入り各地に出かけたメンバーからの鳥情報の主なものをご紹介します(鳥名は順不同)。

- ・ 富士山 ... ルリビタキ、ビンズイ、ホシガラス、キクイタダキ
- ・ 白駒池 ... コマドリ、ルリビタキ、ビンズイ、メボソムシクイ、サメビタキ、キバシリ
- ・ 日金山 ... オオルリ、ヤブサメ、クロツグミ、ホトトギス、サンコウチョウ、センダイムシクイ
- ・ 入笠山、大阿原湿原 ... ルリビタキ、アカハラ、アオジ、コガラ、ヒガラ、カッコウ、ホトトギス、ビンズイ、ホオアカ、コサメビタキ、ノビタキ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、コマドリ、コムドリ、キバシリ、クロツグミ

次回の定例探鳥会は2004年9月12日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第210号 / 8月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp/>

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>